【264】

氏　名（本籍）	道谷里英（みちたにりえ）（兵庫県）
学位の種類	博　　士（カウンセリング科学）
学位記番号	博　甲　第　5785　号
学位授与年月日	平成23年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	**大卒若年就業者のキャリア発達プロセスと影響要因に関する研究**

主　　査	筑波大学教授	博士（心理学）	岡田昌毅
副　　査	筑波大学教授	医学博士	小玉正博
副　　査	筑波大学教授	文学博士	松井　豊
副　　査	筑波大学准教授	Rh. D.	八重田　淳

論文の内容の要旨

（目的）

本論文の目的は、組織社会化と職業的役割の探索という2つの発達課題の個人の視点からの関連づけに着目し、学校から職場への移行期における若年就業者のキャリア発達モデルを検討することである。具体的には、(1)若年就業者が直面している2つの発達課題の関連の明確化、(2)若年就業者におけるキャリア・アダプタビリティ概念の明確化、(3)2つの発達課題とその達成に影響を与える要因を包含した若年就業者の統合的キャリア発達モデルの構築である。

（対象と方法）

本論文では、若年就業者（入社1年目から3年程度の社会人）を対象とした質問紙調査、半構造化面接調査、Web調査、探索的なデータ検討からなる、計6研究を実施した。

（結果）

第4章（研究1）では、入社6ヶ月時点の新入社員185名に対して質問紙調査を実施し、入社初期の組織社会化と入社前後のキャリア成熟度との関連を検討した。その結果、期待と現実のギャップに対しては、入社後の上司や同僚からのサポート、役割の明確さ、能動的な情報探索が重要であり、また、キャリア見通しが、離転職意思を直接的に低下させることが確認された。同章（研究2）では、入社3年目までの若年就業者133名に対して質問紙調査を実施し、組織社会化プロセスにおけるキャリア成熟度について検討した。その結果、役割の学習がキャリア成熟度を高め、キャリア成熟度は、職務満足度と離転職意思の両方を高めることが明らかとなり、キャリア成熟度を構成する尺度の中には、離転職意思を高めるものが含まれることが確認された。

第5章（研究3）では、社会人経験3年程度の若年就業者11名に対する半構造化面接調査を実施し、キャリア発達プロセスとキャリア・アダプタビリティに関して探索的に検討した。M-GTAにより分析した結果、43概念、3サブカテゴリー、13カテゴリーが生成され、キャリア・アダプタビリティおよびキャリア成熟度との関連を表すモデルを提示した。その関係から、組織における役割の学習は、職業人としてのファーストステップと認識され、疑問や葛藤を覚えたとしても、組織に留まることに意味を見出すことを促すことが

確認された。加えて、職業人としての自立において、若年就業者自身の意味づけや環境への働きかけ、職業経験を通じた自己への気づきの重要性が確認された。同章（研究4）では、入社3年目までの若年就業者258名に対して質問紙調査を実施した。その結果、促進的要因である「周囲への働きかけ」「自発的な役割行動」「経験の活用」、プロセス的要因である「新たな自己への気づき」「職務遂行への自信」からなる若年就業者版のキャリア・アダプタビリティ尺度を作成した。

第6章（研究5）では、研究1～4までに得られた知見を統合し、研究4のデータに基づき、若年就業者の統合的キャリア発達モデルを実証的に検討した。その結果、組織社会化と職業的役割の探索との関連においては、職務遂行に必要な知識やスキルに支えられた自信が、今後のキャリア展望に役立つことが確認された。また、将来の方向性を見出すことは、職務満足度を高める一方で、新たな可能性を模索することにより、離転職意思が高まることも確認された。加えて、キャリア・アダプタビリティのうち、経験の活用や周囲への働きかけは、若年就業者の適応において特に重要な要因であることが明らかにされた。さらに、同章（研究6）では、属性別（男女、勤続年数、職種）に母集団を分けてモデル差の検定（モデル適合度の検討）を実施した。その結果、入社初期段階においては属性の差は少なく、共通のプロセスや傾向があることが示された。

（考察）

第7章では、実証的検討の結果を総括し、2つの発達課題である組織社会化と職業的役割の探索、およびキャリア・アダプタビリティを包含した統合的キャリア発達モデルを提示した。本論文を通じ、役割の学習の結果が、職務遂行への自信や新たな自己への気づきを促進すること、キャリア・アダプタビリティが、移行期を乗り越えるためのリソースとして重要であることが示され、若年就業者におけるキャリア発達プロセスと影響要因が明らかにされた。また、これらの知見から若年就業者支援の現場における実践的活用に関する考察を行った。

審査の結果の要旨

本論文は、若年就業者におけるキャリア発達プロセスと影響要因を実証的データに基づき検証を行った研究である。2つの発達課題である組織社会化と職業的役割の探索、およびキャリア・アダプタビリティを包含した統合的キャリア発達モデルを構築したことは、学術的にも独自性が高く、さらに今後の若年就業者支援という実践面に大きく貢献するものであると高く評価された。ただし、研究デザインが横断的であるため、厳密な因果関係の実証には縦断的デザイン研究の必要性など今後の課題も指摘された。

論文審査ならびに最終試験の結果に基づき、著者は博士（カウンセリング科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。